

「学習の質を評価する」

—パフォーマンス評価の考え方と方法—

主 催：創価大学全学 FD 委員会／学士課程教育機構

日 時：2011 年 5 月 13 日(金) 16：45～18：30

開催会場：文系 A 棟 130 教室

参加対象：本学教職員・学生

参加者数：教員 87 名 職員・学生 33 名 計 120 名

講 師：京都大学高等教育研究開発推進センター

教授 松下 佳代 氏

創価大学では学部ごとのラーニングアウトカムズ設定が課題の一つになっています。そして、その評価に欠かせないのがパフォーマンス評価です。パフォーマンス評価は大学の教育力を測る上で重要な方法であるだけでなく、学生の学習成果を評価する上でも大変有用なものです。

「学習の質を評価する」を主題に、京都大学高等教育研究推進センターから松下佳代氏を講師としてお招きし、講演を開催いたしました。

参加者からは「本学におけるパフォーマンス評価の問題意識を高める講演で、大変有益である。授業等に活用したい」などの声が多数寄せられました。

参加者の代表的な声

- パフォーマンス評価に関する様々な情報を得ることができ、有益でした。パフォーマンス評価のための課題作成の具体的なイメージを持つことができ、「評価することが学びにもなる」との観点も新鮮で勉強になりました。
- 具体的な例を示して大変分かり易い説明をして頂き良かった。臨床実習などには大変有効であるが、一般の講義などでパフォーマンスを伴わない学習についてどのように活用できるか考えたい。
- 大学の使命とは何かを考えさせられました。教育現場においてパフォーマンス評価の必要性を痛感しています。
- 「評価とは何か—可能性を引き出すこと」の意味を考えています。そこから評価が学生と教員の可能性を引き出した実践は素晴らしいと思いました。



松下 佳代氏（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）



会場風景（A130）